

# 災害に強い ふるさとづくり に挑戦

# CHALLENGE

# 住みよいまちづくりに挑戦



### <県民の安全な暮らしを守るために>

既存道路を改良して沿線に住む方々の安全な暮らしを守ることや、県民の方が余暇を快適に過ごせるような都市公園の整備、管理を業務としています。道路の幅幅によって、渋滞が緩和され、「スムーズに走れるようになって、移動が楽になったね」という声や、歩道ができることにより、「以前よりも安全に買い物ができるようになったよ」という声を聞くと、業務に携われて良かったと感じます。

### <県民の理解を得ることから始まる>

既存道路の改良を行うときには県民の方の理解が必要です。実際に生活している方は、道路の段差などが気になると思いますので、図面上だけでは分からないことを具体的に説明するとともに、大きく分かりやすい説明資料の作成を心掛けています。

### <仕事と育児の両立を目指して>

女性がやりがいを持って働き続けることができることも新潟県職員の魅力です。出産、育休を経験しましたが、上司や同僚に支えられ、無事職場復帰できました。休日には、整備の際に携わった公園で子供と一緒に遊んでいます。子供の笑顔が、次の仕事に向かう励みになります。

新発田地域振興局  
地域整備部道路課  
主任 幸田 裕美  
(平成11年度採用・総合土木)



### <震災の経験を生かし伝える>

私の担当は、中越沖地震での県の応急・復旧期の活動について検証し、その結果を踏まえた地域防災計画の修正を行うことです。具体的には新潟大学災害復興科学センターと協力し報告書をまとめ、都道府県、市町村、防災関係機関などに提供しました。受け取っていただいた方から「防災業務を進める上で大変参考になりました」という言葉をいただいたときは苦労したかいがあったと思いました。

### <関係各所と連携し検証を行う>

報告をまとめる過程では、県、市町村、民間企業、福祉関係機関等の実務担当者47名にインタビューし、研究者による客観的・専門的視点からの検証を行いました。インタビューでは、どうしても専門的な話題が多くなり、分かりやすくまとめるのが大変でした。ただ、災害の経験を無駄にしないため、「多くの人に読んでいただきたい」という思いで、検証をまとめていただいた先生と何度もやりとりをしながら完成させることができました。



### <県民の安心安全な暮らしのために全力を尽くす>

県職員の仕事は、自分たちの住む地域や生活を良くするためのものです。県民の安心安全な暮らしを最優先に考え、一緒に新潟県を良くしていきます。

防災局  
防災企画課 防災企画班  
主任 八幡 祐介  
(平成8年度採用・一般行政)

